

手術後のアフターケアとして歯周病対策も万全

2016年11月8日の報道番組によると

日本歯周病学会の調査によれば、インプラント治療3年後のインプラント周囲炎の患者さまは9.7%にのぼり、

インプラント周囲炎前段階の炎症まで含めると43%にまで上るとの報道がありました。

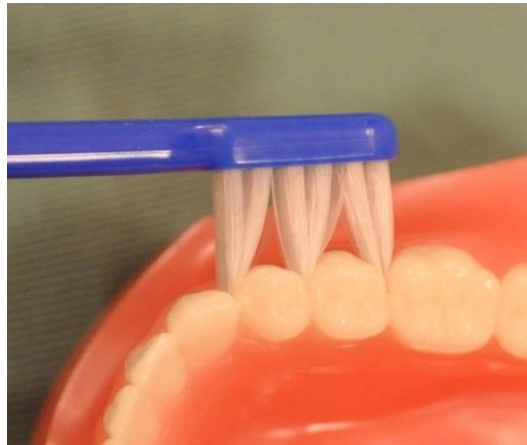
成人の約80%の人が歯周病に罹っていると報告されていることを考えれば、

やはりという感じがぬぐえません。

これは、インプラント治療はインプラントを入れてしまえばそれで終わりではなく、インプラントを入れてしまってからが

インプラント医院との長い本当のお付き合いのはじまりだということを示しています。

長くお付き合いができる医院なのかどうかということも大切な要素です。



〈東京審美会のプロフェッショナルケア歯磨き教室〉

東京審美会では3回コースで歯周病にならないブラッシングを習得していただきます。

インプラント治療院としてお選びいただく医院の担当医は、

歯周病や、インプラント周囲炎にならないように、本気で取り組んでくれていますか？

治療後でも、患者さまお1人お1人といつでも、連絡が取れるような配慮がありますか？

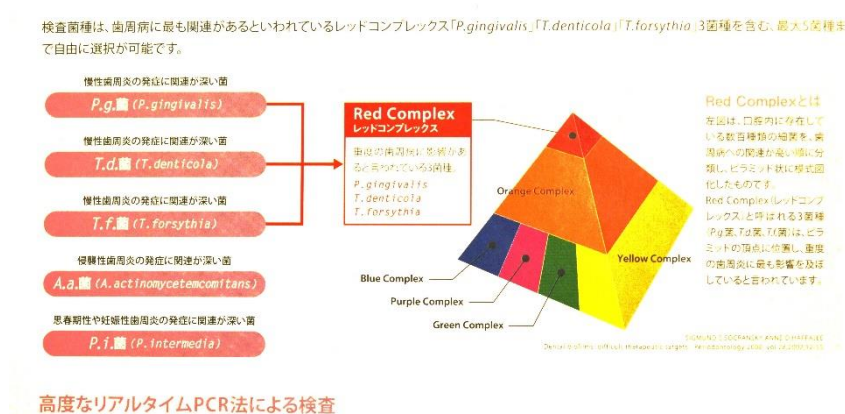
困った時に、いつでもお話をお伺いしてくれるでしょうか？

インプラント周囲炎への対策は十分になされていますか？

東京審美会では、プラークコントロールができるようになるブラッシング教室をはじめ、年

に4回のブラッシング、クリーニング、L8020菌（乳酸菌）を用いた口腔衛生、過度な咬合力を上手に逃がす特別な柔らかいマウスピースの就寝時の使用など、**インプラント周囲炎の対策**に力を入れています。

歯周病の原因菌は数十種類が確認されており、その内5種類が特に危険性が高いと考えられています。



当院ではこれらの菌がどのように分布しているかの細菌検査を行うことができます。原因菌が特定できれば、最も適した治療法を提示することができるのです。

歯周病の悪化を防ぐには、**強い咬合力**によるもの、つまり、**咬合力のかかり過ぎ**に対する対策が必要です。

歯が少なくなり、過剰な力がかかり過ぎることでも歯周病の原因になってしまいます。むしろこの影響がない歯周病の方が珍しいと言えます。

歯周病がある程度進むと歯が動揺し、噛む力に耐えられなくなると、歯周病の悪化が加速するからです。

万が一、歯周病により歯の数が少なくなった場合、咬む力に耐えられなくなって、次々と歯を失っていくことになりかねません。

これ以上、歯を失わないようにするには、

減ってしまった骨やその周囲の組織を積極的に**元に戻す**事が重要になります。

まさに、インプラントは**咬合力の支えを増やし**、**咬合力による歯周病の悪化を防ぐ**ことができるのです。

東京審美会では、

手術後の不安や心配な場合、緊急の場合などには、**24時間、担当医が直接、**
お話を伺いできます。

インプラント治療はもちろん、アフターケアのメンテナンスに至るまで、担当医が責任をも
って対応しているのも東京審美会の特長です。



〈L8020 乳酸菌を応用した東京審美会の虫歯、歯周病予防〉

さらに、東京審美会では、**歯のかぶせものの形態に独自の工夫**がなされており、
インプラント周囲炎になりにくい状態を維持しやすいことに加えて、

患者さまにもインプラント周囲炎にならないための

十分な知識とスキルと身につけていただいていることも大きな特徴です。

大切なインプラントを長く使っていただくために、大切なことだと考えています。